

修士論文要旨

本会の丁紀祥会員が2009年1月に以下の修士論文を大阪大学に提出、修士号を授与されました。以下にその概要を紹介します。

論文題目: CALL 導入による日中通訳学習法—オンライン通訳自習教室の開設を目指して
英文題目: The Application of Computer-Assisted Language Learning to the Method of Japanese-Chinese Interpretation Learning — With the Goal of Establishing the Chinese-Japanese Interpretation Self-study Online Classroom

提出機関: 大阪大学

提出者: 丁紀祥 (大阪大学大学院言語社会研究科通訳翻訳学専修コース)

提出年月: 2009年1月

和文要旨

本研究の目的は、台湾人日本語学習者のために通訳自習教材と通訳学習情報を提供するという理念に基づいて、教育用ウェブサイトを開発・製作するうえで、コンピュータ支援日中通訳学習の効果について検討することである。論文の枠組みは6章によって構成されている。まず第1章は研究背景、研究動機、研究目的、研究方法について説明する。第2章は台湾における日中通訳とCALL導入の現状について説明する。第3章はコンピュータ支援教育(CAI)とコンピュータ支援言語学習(CALL)に関する先行研究のレビューである。第4章は実際にソフトウェアを使い、通訳自習ウェブサイトの開発を試みる。第5章は通訳自習ウェブサイトの有効性・効果について評価を行い、さらに結果を分析する。最後に第6章は、本研究の結論をまとめ、説明するほか、将来の通訳学習用オンライン教材の製作・開発について意見・提案も行う。

コンピュータは現代生活において不可欠な時代になってきている。インターネットの普及及びマルチメディア技術の急速な発展により、E-Learningはすでに重要な学習方法となっている。このようなブームのなかで台湾における日本語学習のための自習ウェブサイトはすでに数え切れないほど多く存在しているが、日中通訳学習用のウェブサイトはほとんどないというアンバランスな現状がある。

近年、台湾では通訳翻訳の学習がブームになっている。2001年から毎年のように新しい通訳学科、研究科が新設されている。また、各大学日本語学科にも通訳授業が開設されている。この台湾における通訳学習ブームに応じ、台湾の日中通訳学習者のための自習ウェブサイトやオンライン教材の製作・開発などは、一刻も早く進めなければならない任務となっている。

筆者は台湾における日中通訳教育機関を四つに分類し、それぞれの機関における通訳教師が通訳練習用教材の入手・利用の実態を調査した。以下の結果が分かってきた。

- ① ネット上から音声ファイルをダウンロードしたいが、方法が分からない。
- ② 良いビデオ素材が見つかったのに、右ボタンクリックしダウンロードできるものではない。大変困ってしまった。
- ③ 市販の通訳練習用教材を購入し授業中に使うしかない。
- ④ 教師自身が講演会に出席したとき、こっそりと録音したものを授業中に使う。
- ⑤ インターネットから音声ファイルをダウンロードできないが、直接録音機を持ち、コンピュータのスピーカに近付き録音する。

台湾における唯一の日中通訳自習ウェブサイトはもともと輔仁大学大学院翻訳学研究科科長の楊承淑により開設された「商務口訳教学網」であったが、2008年8月以降は管理上の都合から削除されている。「商務口訳教学網」に代わる日中通訳学習用のウェブサイトの製作、台湾における日中通訳学習者・教育者のための教材開発が緊要な急務となっている。以上の必要性に応じるため、筆者がコンピュータ支援言語学習に関する理論をまとめ、マルチメディアおよびインターネットを応用した教育の特性と従来の教授法とを比較するうえで、実際にデザイン系のソフトウェアを利用し、日中通訳学習用のウェブサイトの製作を試みた。音声ファイルの素材は、日本語母語話者に依頼して吹込みしてもらい、筆者がソフトウェアで手を加え編集したものである。また、日中通訳練習用素材以外に、通訳教育に関連する情報も多く載せている。ウェブサイトの構成内容は以下の一覧表のとおりである。

表1 日中通訳自習ウェブサイトの構成

項目	内容
トップページ	本ウェブサイトに関する履歴更新情報と、台湾の通訳界と日本の通訳界でのトピックスや関連情報が全部ここにまとめてある。つねに履歴更新し、ウェブサイトの使用者に日本及び台湾国内における通訳翻訳関連の情報を提供しているコーナーである。
学習資源情報	①通訳訓練法模擬:シャドウイング、クイック・レスポンス、ラギングなど、筆者が自分で実際に各通訳訓練法の模範を示して、撮影した上に、さらに字幕を付け、ビデオを編集した。 ②同時通訳模擬例:筆者が自分で撮影した教育用・示範用の同時通訳の模擬例のビデオファイルである。 ③通訳翻訳研究参考文献:通訳翻訳研究に関連する論文・著作の一覧表である。 ④単語帳一覧表:政治、医療、経済、科学技術など各場面における日中対訳集をまとめてある。 ⑤映像素材リンク:映像ファイルを提供している各テレビ局のリンク集である。
自習コーナー	このウェブサイトの主役で、最も重要なコーナーである。①法廷通訳②警察通訳③放送通訳④医療通訳、という四つの分野に分かれ、それぞれ10単元の内容を提示し、学習者に通訳の練習をさせる自習コーナーである。
友好リンク集	通訳翻訳関係のリンクをまとめるコーナーである。どこにどのような通訳翻訳大学・大学院、あるいは通訳翻訳訓練校があるのかリストアップしている。通訳翻訳を研究してい

	る組織ないし研究者とのお互いの交流が促進されることを期待する。
ディスカッション	本ウェブサイトの学習者・利用者がお互いに討論・情報交換・交流ができるコーナーである。本ウェブサイトで自習した人が質問を書き込み、筆者や他のウェブ閲覧者がそれを読んで、回答するという形で、インタラクティブを遂げる。
ゲームセンター	筆者が Macromedia Flash MX の Action Script で作った単語ゲームである。ジグソーパズルゲームや穴埋めゲームが載せてある。ジグソーパズルゲームには、機械部品や道具などハイテク産業関係の単語を暗記するのに役に立つ単語パズルゲームがある。穴埋めゲームは、化学元素の日中・中日練習のゲームである。
投票コーナー	本ウェブサイトの利用者達の参加意識を深めるために、このコーナーを開設した。半分娯楽、半分話題提供という目的で開設したものなので、いたずら投票防止の設定は一切しない。将来、重要性の高い投票話題があれば、上記のいたずら投票防止の設定を入れ、投票項目を新規作成することが可能となる。
人物インタビュー	現役の通訳翻訳者や通訳翻訳教育者を訪問し、彼らの実績を報道するコーナーである。通訳翻訳界で活躍する人達の経験をシェアすることによって、本ウェブサイトの利用者は、通訳翻訳という分野についてさらに詳しく認識することができ、さらには正しい学習態度を習得することができることも期待している。
サイトマップ	利用者にサイトマップをもってウェブサイトの全体的構成をはっきり把握し、どの選択肢の下にどの選択肢があるか、一目瞭然に分かる。

評価を実施することによって、本ウェブサイトの実用性や効率性などについて検討する必要がある。本ウェブサイトに対する評価は「専門家評価」と「学習者評価」という二つに分けている。「専門家評価」は教師の立場から、本ウェブサイトの有効性や実用性などについて評価してもらおうこと。具体的に以下の異なる分野の四人の専門家に依頼し、本ウェブサイトについて評価してもらった。

表 2 四人の専門家

	職務	専門分野
YC 先生	翻訳学研究科 教授・科長	日中通訳教育、通訳理論 日中通訳実務
YS 先生	応用日本研究科 副教授・科長	日本語教育、視聴覚教材 教育メディア
C 先生	教育科技研究科 副教授・科長	教育用ウェブサイト製作 コンピュータ支援教育 教育メディア、教育心理学
L 先生	日本語学科 講師	日中通訳教育、放送通訳

「学習者評価」は学習者の立場から、本ウェブサイトについて評価してもらおうものである。筆

者は台湾の南部にある大学において日本語を主専攻とする四年生 103 名を対象にアンケート調査とインタビューを実施した。本ウェブサイトが CD に焼いて被験者達に持って帰らせ、使ってもらった。一週間後、アンケート調査で被験者達の利用状況と評価を記録・分析した。また、回収したアンケートの中に特別相談希望表明の人がいれば、電話や、直接会って話をするなど、プライベートの時間でインタビューを行った。

表 3 被験者の構成

	構成	人数	合計	百分率	合計
性別	男性	19	103	18.45%	100%
	女性	84		81.55%	
年齢	21 歳～25 歳	69	103	66.99%	100%
	26 歳～30 歳	14		13.59%	
	31 歳～35 歳	17		16.50%	
	36 歳～40 歳	3		2.91%	
日本語能力試験 1 級合格の有無	有	68	103	66.02%	100%
	無	35		33.98%	

今回の学習者評価も専門家評価も、アンケート調査とインタビューなどの手段で得た本ウェブサイトに関する評価は肯定的なフィードバックが大多数である。しかも学習者評価の結果によると、90.29%の人は本ウェブサイトを利用して自習したいという意欲を示した。また、専門家評価の結果によると、教師達は授業に本ウェブサイト教材として使いたいと示した。この二つの結果から見ると、インターネットによる通訳学習の実現は可能であることが分かった。とくにコンピュータ利用の普及に伴い、コンピューター家一台の時代が訪れてきている 21 世紀の現在では、インターネットによる学習の実現が可能となる環境が整っている。本論文の構成は半分が理論、残りの半分が実践という形になっており、今後の台湾における日中通訳教育と教材開発に少しでも貢献ができるように祈っている。

.....

【著者紹介】

丁紀祥 (Ting Chi Hsiang) 台湾・台北教育大学・教育伝播科技研究科デジタルコンテンツ制作科目等履修コース修了後、内湖サイエンスパークでウェブデザイナーとして勤務。2009 年 3 月大阪大学大学院言語社会研究科・通訳翻訳学専修コース博士前期課程修了し、同大学人間科学研究科博士後期課程に在学中。

【参考文献】(一部)

日本語(五十音順)

池田伸子 (2003)『CALL 導入と開発と実践—日本語教育でのコンピュータの活用』くろしお出版

- 田中深雪(2006)「マルチメディア時代の通訳訓練—CALL システムの導入とその有効活用について」『通訳研究第 6 号』日本通訳学会
- 鄭起永(2002)「日本語教育におけるマルチメディア活用の有効性と教師の役割」『明海日本語』第 7 号 明海大学日本語学会
- 塚本慶一(2003)『中国語通訳者への道』大修館書店
- 丁紀祥(2008)「FLASH を利用したマルチメディア教材製作の実践報告—日本語単語ゲーム教材を例に—」大阪大学言語文化学会第 34 回大会
- 丁紀祥(2008)「台湾における日中通訳教育の現状調査報告」『EXORIENTE』NO.17. 大阪大学言語社会学会
- 橋本ゆかり・森本暁美(2006)「E-learning 教材における第二言語学習についての基礎調査」『言語情報学研究報告 11』東京外国語大学大学院地域文化研究科
- 水野真木子・鍵村和子・中林真佐男・長尾ひろみ(2002)『グローバル時代の通訳—基礎知識からトレーニング方まで』三修社
- 水町伊佐男(2006)『コンピュータが支援する日本語の学習と教育—日本語 CALL 教材・システムの開発と利用』溪水社
- 葉淑華(2002)『日本語教育における視聴覚教材活用—研究と実践』台湾台北:東呉大学日本語文研究科博士論文

中国語(画数順)

- 楊承淑(2002)〈口訳教学的数位化與網路化〉《翻譯学研究集刊》第 7 号 台湾台北:台湾翻譯学会
- 楊承淑(2003)〈口訳的網路教学:実体課堂與虛擬平台的互動關係〉《翻譯学研究集刊》第 8 号 台湾台北:台湾翻譯学会
- 廖柏森(2006)〈使用 Moodle 網路平台實施筆訳教学之初探〉《第 11 回通訳翻譯シンポジウム論文集》台湾台北:台湾翻譯学会

